

がん哲学外来コーディネーター認定制度委員会の設置

【がん哲学外来コーディネーター市民学会の「認定基準」を設ける背景】

がん哲学外来市民学会の果たす役割のひとつは、全国のがん哲学外来カフェ（以下、カフェという）が学び合う場を提供することです。地域ごとのがん哲学外来の取組の特色をがん哲学外来市民学会大会で提示していただいて、これから新たにカフェを立ち上げる方々への参考にさせていただければよいと考えます。

カフェには多様性がある一方で、「がん哲学外来」としての共通の規範も必要です。当学会におけるがん哲学外来コーディネーター養成講座はその規範を身につけたコーディネーターを育成します。

がん哲学外来市民学会認定コーディネーターが求められる背景には、今後、カフェが全国に広がっていく中で、活動の質を維持し、問題の発生を未然に防ぐためのしきみを学会が主導して設けることにより社会的な信頼を担保する必要性が存在します。また、病院などにカフェを開設するに際して相応の資格が求められることも予想されます。

以上の背景から2015年度以降は「がん哲学外来カフェ」は少なくとも1名の学会認定「がん哲学外来コーディネーター」により開催されることが望まれます。学会認定コーディネーターには、カフェが一定の規範から逸脱しないように責任をもってカフェを主催することが求められます。

【学会認定コーディネーターといわゆるコーディネーターの違い】

このように学会認定コーディネーター誕生の背景を考えると、両者は区別する必要があります。学会認定コーディネーターはカフェを適切に運営するための資格であり、いわゆるコーディネーターとしての資質を測る意図ではありません。がん哲学外来の精神で日常生活のあらゆる場面でコーディネーターを行うことは自由であり、小学生や幼稚園の子供にもそのような役割を果たすことは可能であると思われます。

【今後の課題】

1. がん哲学外来コーディネーターに求められるものは時代に即して、経験に即して、変化していくものであることをふまえて、毎回の養成講座や大会で考えていく必要があります。認定制度委員会は枠組みを決めることを目的とし、内容を盛るのはそれぞれのコーディネーターに求められていることであることを認識し、今後、コーディネーターも含めた情報交換などを積極的に行ってゆく必要があります（認定制度委員会の設置）。
2. がん哲学外来コーディネーターの制度が動き始めたときに、さまざまな形（カフェのかたちを含めた様々なスタイル）が生まれてくると思われます。多様性があることは良いことと考えます。同じようがん患者さんをサポートするがんサロンやピアサポートもそれぞれの定義があることを思い、互いに尊重し合うスタンスが望まれます（この委員会で決められることではないと思います。）
3. がん哲学外来やカフェをコーディネートするがん哲学外来コーディネーターと実際に相談にのる相談員人というのでは若干 主旨が異なると思いますので、今後認定相談員のようなものも必要となることが予想されます。

【がん哲学外来コーディネーター認定制度委員会】

（活動内容）

1. 初年度、認定基準の設定
2. 認定制度の年度ごとの見直しへの提言
3. 継続的に活動し、柔軟に見直しも検討する
4. 年度ごとの新規認定者の確認
5. がん哲学外来コーディネーターの活動状況、意見の把握
6. コンプライアンス順守状況に関する確認 見直し課題の有無の検討

【認定制度委員会 2012.11.24 発足】

◆委員長

石田 卓（吉田富三記念福島がん哲学外来/福島県立医科大学）

◆委員

安藤 潔（がん哲学外来市民学会/東海大学医学部血液・腫瘍内科教授）

加藤誠之（新渡戸稲造記念がん哲学外来/岩手県立中央病院がん化学療法科長）

宮原富士子（勝海舟記念下町（浅草）がん哲学外来 ㈱ジェンダーメディカルリサーチ代表取締役）

宗本義則（浅井三姉妹がん哲学外来/福井県済生会病院集学的がん診療センター長）

村島隆太郎（がん哲学外来浅間対話カフェ/佐久市立国際浅間総合病院院長）

◆事務局

片桐孝子（がん哲学外来佐久ひとときカフェ/がん哲学外来研修センター）